

導入事例

マトリクス認証[®]を使った、デバイスのいらないワンタイムパスワード

SECUREMATRIX[®]

国際武道大学

SECUREMATRIX[®]を全学で採用 学生に向けた安全なネットワーク開放 事務系からの個人情報漏洩防止も実現

課題

- 破損や紛失の危険を孕んだ配付物のない個人認証の強化
- 事務系システムを保護し、学生の個人情報漏洩を防止
- 携帯電話向けの情報提供にも利用できる認証基盤の構築

効果

- 配付物のないSECUREMATRIX[®]で個人認証を強化
- WindowsログオンにSECUREMATRIX[®]を利用し、VLAN全体の保護
- PC、携帯電話で利用できるSECUREMATRIX[®]で共通認証基盤を実現

導入企業



国際武道大学

<http://www.budo-u.ac.jp/>

国際武道大学概要

武道をはじめ、各種スポーツに関する技術、理論を学ぶ大学として1984年に創立された。大学としての教育研究活動はもちろん、選手や指導者、スポーツトレーナー、保健体育教師など、スポーツを支えるあらゆる人材の育成に取り組んでいる。



国際武道大学
附属図書館長
総合情報センター長
高見 令英 教授



国際武道大学
教務課
課長代理
増元 宏志 氏



国際武道大学
図書館事務室
情報システム管理室
室長代理
藤田 純 氏

導入の経緯

国際武道大学は、房総半島の南端に近い千葉県勝浦市にある。光ファイバーの敷設が遅かった地域ということもあり、同大学がネットワーク環境の整備に本格的に乗り出すまでにはやや時間がかかった。もちろん、学内のネットワークや事務用のシステム整備などは進んでいたのだが、インターネットとの接続帯域が不足した状態では本格的に学生に向けて開放できずにいたのだ。やがて接続帯域の課題も解消され、学生にもPCやインターネットを使ってもらうための準備ができた。当初は実用面を重視し、セキュリティよりも接続性を優先したネットワーク設計が進められ、ネットワークへのログインに学生が利用していたのも、IDと固定パスワードだった。「もっと本格的に使ってもらうためには、ID、パスワー

ドの管理負荷が高くなって、しかも高いセキュリティを実現できる仕組みが必要だと考えていました」セキュリティ強化の理由を、総合情報センター長である高見教授はそう語った。固定パスワードではメモなどに残してパソコンルームに忘れていたり、覚えやすく破られやすいパスワードに変更してしまったりと、セキュリティ強度には不安が多かったのだという。また、ネットワークの確実な分割と、情報漏洩の防止も課題だった。単科大学なので学術系ネットワークは1系統しかないが、それとは別に事務系のネットワークが存在する。事務処理では連絡先や成績など、決して漏洩してはならない学生の個人情報を多く取り扱っている。これらのネットワークに関しても、セキュリティを強化したいという意向を持っていた。

導入決定のポイント

2007年に入り、具体的な検討が始まった。学生向けのセキュリティ強化も、事務系ネットワーク向けのセキュリティ強化も、同じ個人認証の強化で対応することは決定していた。候補として挙げられていたのは、ワンタイムパスワード製品とICカードなどを利用する認証システムの製品だった。しかし候補のうちICカードの認証システムは、具体的な製品検討を行う前の段階で候補から外されてしまったそうだ。情報システム管理室 室長代理 藤田氏は、その理由をこう教えてくれる。「たとえばICカードを使った認証を採用したら、教員は出張先でPCを借りてもICカードリーダーがなければ学内ネットワークにログインできません。また学生に多数のカードを配付すれば、破損や紛失の対応もしなければなりません。いずれも現実的

とは言い難いので、配付物のないものに絞って検討を進めました」

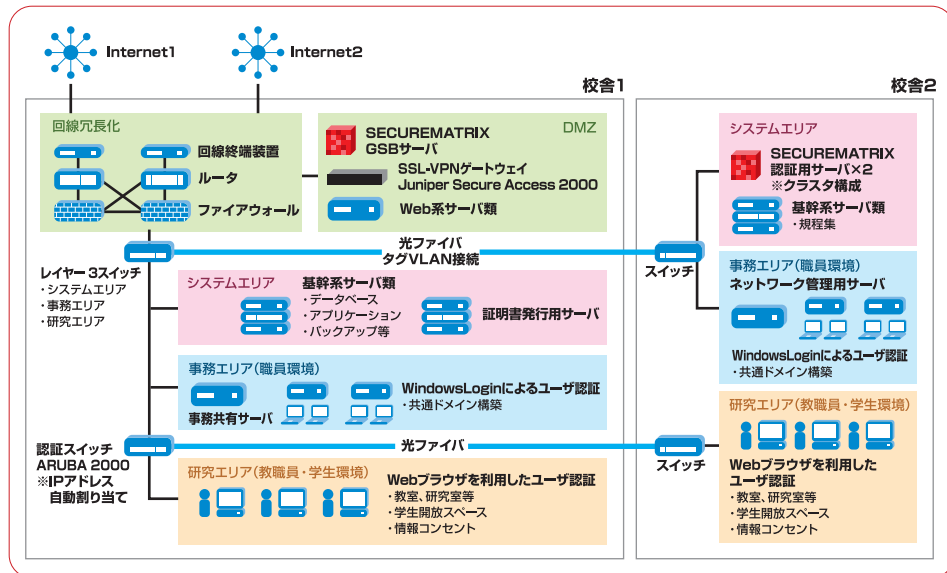
配付物のないワンタイムパスワード製品として、具体的な検討が進められたのが、SECUREMATRIX[®]だった。評価されたポイントは、多彩なログイン形態に対応している点だ。出張先からは、ブラウザさえあれば手軽に学内ネットワークにログインできる。Windowsログオンにも対応しているので、事務系ネットワークでは端末へのログインからシステム全体を保護できる。また、将来は学生に向けて携帯電話を利用したサービスを行うことが、この時点で既に決定していた。そのため、PCと同じログイン方法で携帯電話でもネットワークにログインできる点も評価されたのだった。



実際の導入までの課題

システムが整い、教職員へのテスト導入が始まった。2008年1月のことだ。まずは124名いる教職員に向けてID、パスワードが配付され、学内ネットワークへのログインに利用された。教職員からの反応は良く、展開自体とてもスムーズに進んだという。テスト導入で良好な結果を得て、同年4月、いよいよ学生に向けた導入が始まった。全学生への一斉導入に当たり、利用方法をきちんと説明していく手段が必要だった。授業開始前のオリエンテーション期間中に、数十人ずつのグループに分けて順次情報処理教室に集め、全学生に対して説明会を実施した。関係する教職員を総動員しての、集中的な取り組みだった。そこではSECUREMATRIX®の基本的な使い方、イメージパスワードの登録などが行われた。

国際武道大学 構成概略図



現在の運用状況

学生のオリエンテーション期間も終わり、本格的な運用が始まった。約2100名の全学生にID、パスワードが発行され、パソコンルームに設置されたPCへのログインに使用するほか、持参したPCを情報コンセントに接続し利用することができる。今後は、自宅からインターネット経由で接続した際の学内ネットワークへのログインにも活用する予定である。キャンパス内のネットワーク利用場所の拡大も検討されていると、教務課課長代理の増元氏は計画案を明かしてくれた。

「今後はより多くの学生にネットワークを使ってもらえるように、利用場所を増やしていきたいですね。まだ計画案の段階ですが、学生が集まる建物や食堂などに無線LANを設置することなども考えています」

職員向けのPCでは、WindowsへのログオンにもSECUREMATRIX®が利用されている。事務系システムをVLANで区切り、決められた人物が決められた端末からしかログインできないように設定されている。職員以外には事務系シ

テムのあるVLANにアクセスさせないようにすることで、個人情報を適正に守っているのだ。今後は保護するだけではなく、VPN経由で教職員に事務系システムの一部を開放することも検討されているそうだ。個人認証が強化されたことで、情報を守りつつ活用するステップへと、国際武道大学は進もうとしている。



学生に向けた本格的なネットワーク利用促進に取り組み始めた国際武道大学。学生自身に、より積極的にネットワークに触れてもらうために、携帯電話向けの情報提供を準備中だ。休講情報、教室変更、試験情報、諸連絡など、それぞれ関係する個人や集団に向けて発信していくシステムを、現在開発中だという。もちろんログインにはSECUREMATRIX®を利用する。「プッシュ配信も含め、利便性の高いシステムを作ることによって学生に興味を持ってもらい、積極的な利用を促していきたいと考えています。これがキラーアプリになると期待しています」と、高見教授は抱負を語ってくれた。

※記載内容及び、各人の所属役職は取材当時(2008年12月)のものである。



開発元

株式会社シー・エス・イー

http://www.cselttd.co.jp

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-3-1 A-PLACE 渋谷金王
TEL.03-5469-6026 FAX.03-5469-6037
E-mail: sales@cselttd.co.jp

●お問い合わせ先